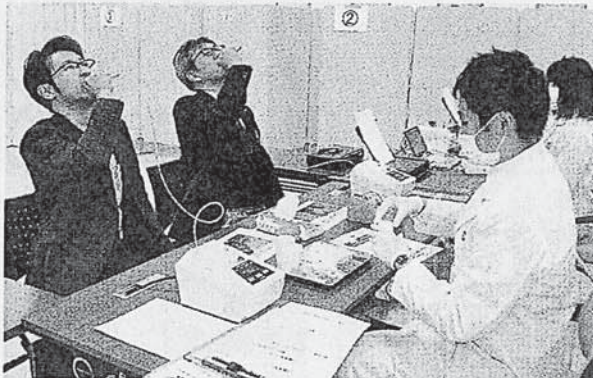


# 産学官民連携で健康づくり

## 弘大COI | 2期連続 最高評価

### 国の「方向性にお墨付き」 中間評価

2期連続で最高評価を獲得した弘前大学COIの取り組み(写真は2019年1月の啓発型健診)



国の研究開発支援事業・革新的イノベーション創出プログラム(COI)センター・オプティマ(イノベーション)の採択を受け、「本県の短命県返上」や「健康長寿社会の実現」に取り組み弘前大学COIが、国の中間評価で最高評価「S+」を獲得したことが22日、関係者への取材で分かった。3年前の前回に続き2期連続の最高評価獲得。評価は今後、正式発表される。関係者は「(取り組みの)方向性が(正しい)お墨付きを得た」と喜び、産学官民連携の健康づくり推進に意欲を新たにしている。

文部科学省が中心となり、最長9年間で、支援費は年間最大10億円程度に見込んで、弘大は2013年度にCOIの拠点に採択された。その取り組みを念頭に、革新的で実用化の期待が大きい産学連携の研究を支援している。支援期間は、発

内外から注目を集め、前回(1回目)の中間評価では、5段階中最高評価の「S+」を獲得。医療健康分野では全国で唯一だった。同拠点では、健康ビッグデータを用いた疾患予兆法の開発や、兆因子に基づく予防法の開発、認知症サポーターシステムの開発を主たる研究課題に据えて取り組みを展開。具体的には、弘前市で継続する「岩木健康増進プロジェクト」の健診で得られたビッグデータの解析や、住民一人ひとりに呼び掛ける健康教育・啓発活動を通じて、健康づくりとまちづくりを同時に進めている。

過去6年間で振り返ると、岩木健康増進プロジェクトが求心力となり、ヘルスケア関連分野に注目する国内の大企業がCOIに続々と参画。多額の民間資

金も投入されたことでプロジェクトが活性化した。多大学連携により、2000項目にも及ぶ「岩木健康増進プロジェクト」の健診で得られたビッグデータの解

析も順調に進み、初期段階ではあるが、糖尿病や認知症といった20もの特定疾患の発症を予測するモデルを構築し、社会実装への道筋も見え始めている。また、地元企業や弘前市の協力を得て「新型健診(啓発型健診)」のモデル開発にも着手。同健診は、受診者に結果をその日のうちに伝え、健康増進や健康管理の力を高めても

「特に今回は(Sより高い)S+ということで、非常に意義が大きい」とし、「このチャンスを生かし、残り3年間(国の支援期間)も産学官民一体の貢献にもつながると考えている」と語った。

(成田真由美)